

令和2年度 丹波篠山市立西紀中学校 学校評価

〔教育目標〕 基礎力・思考力・実践力をもち、磨き合って共に自立に向かう生徒の育成～元気な生徒・元気な先生・元気な学校～

〔めざす生徒像〕 主体的な学びと対話を通して、深く考え実践する生徒

〔めざす学校像〕 安全安心を基盤に、生徒が生活・学習を創造するコミュニティ・スクール

次年度改善の柱〔3カ年計画の2年目〕

- (1) 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善への取り組み
(学力向上・自己教育力・授業改善・ユニバーサルデザイン・外国籍生徒への指導)
- (2) 実態に応じた特色ある学校経営・学年経営・教育活動の見直し
(学校行事・学年行事・学年経営・部活動・コミュニティスクール・業務改善)
- (3) 更に充実した生徒指導体制・小中連携への取り組み
(ヨコ連携の強化・機動力のある組織・不登校対策・情報モラル・小中連携)
- (4) 未来に挑戦し自己実現を目指すキャリア教育への取り組み
(キャリア教育・進路指導・体験的学習)

A:よく達成出来た B:達成出来た C:やや課題あり D:改善を要する ○:成果 ▲:次年度への課題 □:学校関係者評価

重点1 基礎力・思考力・実践力を育む学習指導・授業改善		評価
1	新学習システムを活用した少人数指導や補充的な学習、発展的な学習など、個に応じ個が生きる指導内容・方法の授業改善を進める。	A
2	見通しのある予習、書くことによる個人思考、対話による集団思考、修正・推敲・活用による振り返りを通し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。	B
3	生徒自らが学習を振り返り、その定着を図り新たな課題に挑戦していけるように、基礎基本の定着とその活用を意識した評価、評価言を工夫する。	A
4	知識・技能が他の学習や生活で活用できるよう、見通しを立てて予習をしたり振り返って復習したりする家庭学習や放課後学習の充実を図る。	B
5	言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や現在の諸課題に対応する資質・能力を教科横断的な視点で育成する。	B
6	読書への興味を深めるとともに、外部人材を活用も含め創意工夫して学力向上の取組を推進する。	B
○	授業における複数支援の充実、主体的・対話的な活動の導入、ユニバーサルデザインの視点による授業づくり、図書室の整理には一定の成果が表れている。また、がんばりタイムでの外部人材の活用や生徒のニーズに応じた学習支援ができた。	
▲	読み取る力・発信する力・書く力・ノート指導等を中心に、教科横断的な取り組みを徹底させる必要がある。また、GIGAスクール構想の中、各教科を中心に教育活動において、一人一台パソコンをいかに有効活用していくかは喫緊の課題である。	
□	書くこと・読むことに関しての評価がやや低い。情報機器等の普及により、書く機会・読む機会が減少してきているが、その分、良い読書習慣を身につけて頂きたい。また、今後も、外部人材の活用により、学習支援を充実させてほしい。	
重点2 誇りを感じる学校・学級集団・特別活動		評価
1	学校・学級の課題について、話し合い合意形成・協力して改善することを通し、現在及び将来を見据えた課題解決力や人間関係形成・社会参画する力を育てる。	A
2	学級の生活・学習を話し合い、PDCAサイクルで改善する中で、誇りと責任感を持ち、よりよい生活や人間関係を築く自主的・実践的な態度を育てる。	B
3	生徒会・教科係が生活・学習の諸課題を解決・改善する活動を通して、協力・協働して諸課題を解決しようとする自主的・実践的な態度を育てる。	A
4	学校行事を通して、集団への所属感・連帯感を高めたり、高い目標を持ち、自己を生かし、協力して課題解決したりする自主的・実践的な態度を育てる。	A
5	効率的、効果的に部活動を行い、顧問と協議しながら自発的・自主的に心身を鍛える生徒を育成する。	B
○	コロナ禍の厳しい状況の下、可能な限りの学校行事・学年行事等に取り組み、生徒の意欲の向上や集団の成長に繋がったことは大きな成果であった。シトラスリボンの活動も、非常にタイムリーであった。	
▲	生徒数や教職員数が減少していく中、学年経営の在り方、部活動の運営や指導、生徒会組織の見直し等、早急に検討が必要である。また、年間を通して、学級活動の時間の確保及び計画的な取り組みは課題である。	
□	学年1クラスの状況が続く中、生徒会運営・学校行事等で、西紀中ならではの工夫がほしい。シトラスリボンの活動は、タイムリーであり、意義があったと考える。	

重点3 未来を見据えて個性・能力の伸長を図るキャリア教育		評価
1	教育活動全体で、学ぶことと将来や社会とのつながりを考える中で、社会的・職業的自立に向けた資質・能力や社会参画する意欲・態度を育む。	B
2	生徒が生き方を考え、自らの意思と責任で自らのよさを生かす進路を選択できるよう、キャリアノートを活用し個に応じた組織的・計画的な進路指導を行う。	A
3	体験活動のねらいを明確にし、事前事後指導を充実することを通して、勤労・奉仕等を尊ぶ心や、社会の一員としての自覚、社会参画への意欲・態度を養う。	A
4	地域人材による学習や地域貢献活動により、ふるさと「西紀」を愛する心を培い、我が国や外国の文化・伝統を理解し、尊重し合う生徒の育成を図る。	B
○	休校やコロナ感染等のため、時間的・内容的には制約されたが、各学年とも計画的な取り組みができた。トライやる代替活動、シトラスリボンの活動等も、今後の活動を示唆できる取り組みとなった。キャリア教育に関する講演会も実施できた。	
▲	新しい時代のキャリア教育の模索、教職員の意識改革、キャリアファイルやキャリアパスポートの有効活用、人権・キャリアの日の有効活用、年間計画の明解化等は、来年度に向けての課題である。	
□	生徒諸君が、自らの将来を考えられるような教育環境作り、体験的学習が必要であると思う。「家庭学習の日」を「人権・キャリアの日」に変更されたのはいいことだ。生徒や先生方の意識改革を期待したい。	

重点4 存在感や成就感を大切にした生徒指導		評価
1	生徒が存在感を実感する中で自己指導力や人間関係を高めるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら命と人権を根幹に据えた生徒指導を進める。	A
2	全教職員の共通理解のもと、ガイダンスとカウンセリングの双方から心の居場所づくりに努め、問題行動、不登校等の未然防止、早期発見・対応する。	B
3	スクールカウンセラーと連携した教育相談活動を充実するとともに、相談窓口を明確化し、早期発見・早期対応に努める。	A
4	生徒指導方針を発信し、地域と一体となった生徒指導を進めるとともに、警察、福祉、医療等の関係機関と連携し継続した組織的・計画的な個別支援を行う。	A
5	法・条例・学校基本方針や生徒会「いじめ0宣言」によりアンケートや教育相談等を通していじめを積極的に認知し、関係機関とも連携し、早期解決を図る。	A
6	情報機器の使用時間や使用目的について、生徒会活動や関係機関との連携によりコミュニケーションや個人情報、肖像権や著作権の権利を正しく理解させる。	B
○	不適応やトラブル等の早期発見・早期対応、学年を超えた情報共有、ケース会議やSCとの連携に基づく多角的な視点からの生徒理解・生徒支援には一定の成果が表れている。	
▲	情報モラルに対する継続的な指導と保護者への啓発、校則や生活の決まりの見直し、課題解決能力や自己肯定感の向上、規範意識の更なる醸成、教職員の指導力の向上には引き続き取り組みを強化していく。	
□	情報機器の取扱で、「西紀中ネットルール」の啓発は評価出来る。今後、更に家庭教育と連携した取り組みが必要になってくる。いじめは残念だが、組織として認知され、しっかりと指導されていることは素晴らしい。	

重点5 豊かな人間性・社会性を育む特別支援教育、道徳教育、人権教育		評価
1	特別支援教育を中核に据え、ユニバーサルデザインや教育支援計画における合理的配慮を充実し、豊かな人間関係づくりと、ともに伸びる力を育成する。また、日本語指導を必要とする生徒や不登校生徒についても個別の指導計画に基づき、計画的・組織的に指導を行う。	A
2	考え議論する道徳の時間を要として体験的・実践的活動をはじめとする学校の教育活動全体で、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。	A
3	人間尊重の精神や生命に対する畏敬の念を具体的な生活の中に生かせるよう、全教育活動を通じて命と人権の大切さを教え、共に生きる心を育む。	A
○	特別支援学級生徒・サポートファイル所持生徒・外国籍生徒への支援の在り方は、本校の教育活動の1つの柱となっている。また、人権朝会・Hand in Hand・道徳の授業は、様々な問題や課題について考える機会となり、人権意識・人権感覚の高揚につながっている。	
▲	道徳の時間の充実と評価方法、外国籍生徒への更なる支援の在り方は、今後、研究・検討の余地がある。同和問題への取り組み、体験型人権学習活動支援事業に代わる活動の検討は課題である。	
□	道徳・人権・特別支援教育がAランクの評価をされていることは素晴らしい。価値観も多様になる中、座学だけではなく、自分も他者も大切にできる・命の大切さを再認識できる体験的な学習、実践的な取り組みを更に期待したい。	

重点6 危機管理意識を高め、自らの命を守り抜く安全・防災教育		評価
1	西紀中学生3つの宝(挨拶・傾聴・全力)を基盤に、きびきびした生活、すがすがしい環境、さわやかな仲間による安全安心で規律ある教育環境を確立する。	A
2	安全点検の徹底や体育授業等におけるきめ細かい生徒観察により事故の未然防止を図るとともに、定期的な緊急連絡体制の確認により、事故に即時即応する。	B
3	食・睡眠・交通をはじめ、情報進展に伴う事件・事故、防災や国民保護等、健康・安全に係る情報を的確に判断し、主体的に行動する能力を育成する。	B
4	家庭や地域、関係機関・団体と連携した防災防犯体制を確立するとともに、危険箇所の把握や自転車保険への加入等、安全に対する意識の高揚を図る。	B
○	限られた時間の中、情報機器への使用・防災教育・避難訓練・交通安全・コロナ対策への取り組みが、生徒指導や人権教育・道徳と連携を図りながら実施できたことは、教職員の危機意識の高揚にもつながっている。	
▲	感染症対策を含めた安全意識の向上、各種マニュアルの徹底と見直し、情報安全への取り組み等を通して、生徒・教職員とも、「マンネリ化」に陥らないことが大切である。	
□	今後も、危機管理意識の向上は、教育の最重要課題でお願いしたい。突発的災害から自分の命を守る教育だけでなく、常習的災害(放射能、薬物乱用、発がん性物質、情報モラル)等、生活環境における安全教育も必要である。	

重点7 美しく活気に満ちたコミュニティ・スクール		評価
1	ホームページ、オープンスクール等により、教育活動の目標や内容を具体的に説明し、家庭・地域の参画を促進する社会に開かれた教育課程を進める。	A
2	生徒会と学校運営協議会が協議する「四つの力委員会」により、社会や将来につながり、夢・やりがい・やすらぎ(安全安心)を体感する教育を進める。	A
3	学校運営協議会の協力のもと、教育課程の評価改善や、人的物的支援などのカリキュラムマネジメントを効果的に進める。	B
4	小・中・高等学校の連携を密にし、児童生徒・教職員・地域の交流を通して、地域の学校としての育ちの連続性を確立する。	B
○	例年通りの活動がストップした反面、「四つの力委員会」における生徒の提言や討議、生徒会執行部の成長には大きな成果があった。学校運営協議会においても、本校の学校運営や教育活動に対しての、本当に前向きな協議ができています。	
▲	コロナ禍が続く中、地域貢献活動・各種ボランティア・スクールアシスタントに代わる活動も含め、学校運営協議会による事業の精選・見直し等には取り組んで行く必要がある。	
□	「四つの力委員会」での生徒の皆さんの意見発表は本当に素晴らしかった。コロナ禍での各種のボランティア活動、地域貢献活動の内容や方法を検討する必要がある。また、来年度から、学校運営協議会主催のキャリア教育講演会を期待したい。	

重点8 笑顔と元気に満ちた教職員組織		評価
1	豊かな人間性の涵養に努め、専門性と実践的指導力の向上をめざし、研究と修養に努める。	B
2	心を外に開き、基礎的指導力向上を図り、保護者や地域の人々の期待に応えられる教職員組織であるよう研究と修養に努める。	A
3	法令、社会通念に基づき、非違行為は教職員全体の信用・信頼を損なうことを深く理解し、教職員としての誇りと責任をもって自己の行動を律するとともに、情報化、グローバル化など社会の変化に対応した教育観を培う。	A
4	笑顔と元気に満ちた態度で生徒と向き合うため、校務の効率的・計画的な実施、会議の効率化(会議資料の事前配布)、ノー部活デーや定時退勤日の徹底、記録簿の整理、計画的な年休取得など勤務時間の適正化を進める。	B
5	3カ年計画の1年目の取り組みが計画的にできている。	B
○	課題は多いが、教職員としての使命を自覚し、教職員全員が前向きに、日々の教育活動や実践的指導力の向上に取り組んでいることが、生徒や保護者との信頼関係の構築につながっている。	
▲	時間外勤務・会議時間の短縮、勤務時間の適正化に向けた、職員一人一人の意識改革は必要である。あくまでも生徒と向き合う時間の確保、教材研究の時間を確保するために、業務改善には取り組んでいく。好ましい教職員関係の樹立もお互いが意識する必要がある。	
□	先生方の真摯な取り組み、頑張り感謝したい。ありがとうございます。本当によく頑張っているが、教職員に余裕がないと、元気な組織は作れない。年休の取得・勤務時間の適正化・業務改善を進めていただき、メリハリのある学校生活を生徒にも示して頂きたい。	